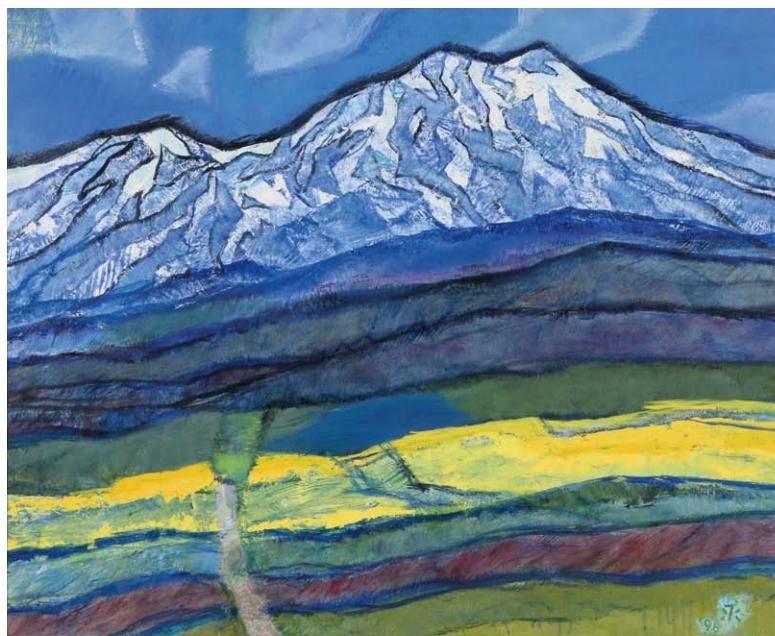


平成 30 年度 特別企画
致道博物館 館蔵品 洋画家三人展

常設展示室

2018 11 月 2 日 (金) - 12 月 4 日 (火)



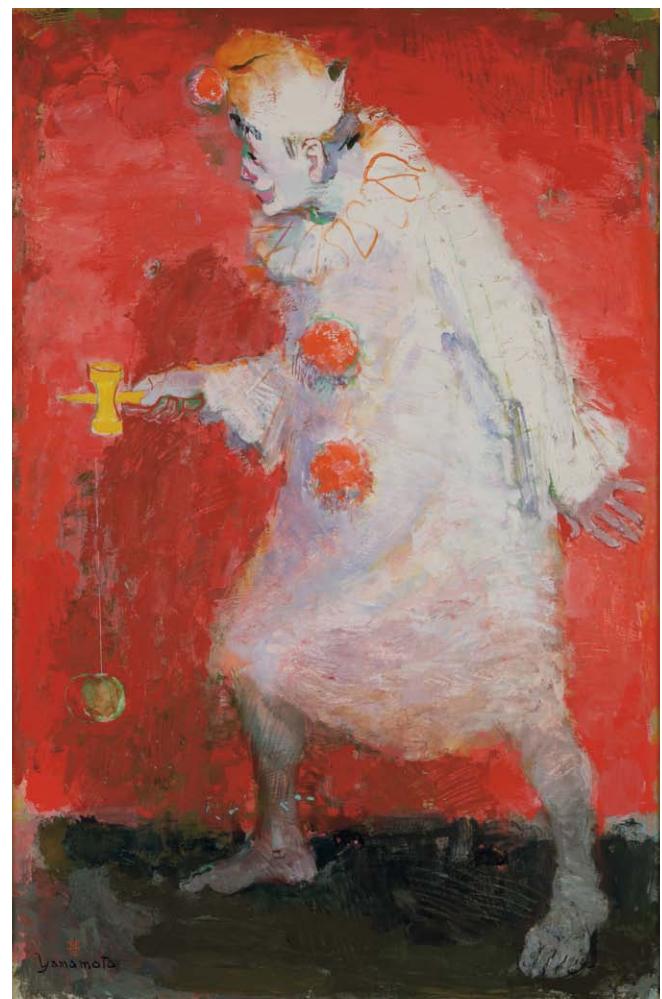
齋藤 求 菜の花の咲く頃 1996 30F 油彩・キャンバス



地主悌助 石 1966 20F 油彩・キャンバス

致道博物館は1950(昭和25)年、旧庄内藩主酒井家16代忠良氏が、地方文化の向上発展に資することを目的として土地建物および伝来の文化財などを寄附したことにより開館しました。名称は庄内藩校「致道館」に由来します。

鶴ヶ岡城三の丸に位置し、古くは藩の御用屋敷で、現在は幕末に建てられた御隠殿とよばれる建物の一部が残っています。奥座敷から望む書院庭園は、国の名勝に指定されています。構内には重要文化財旧西田川郡役所、旧鶴岡警察署庁舎、旧渋谷家住宅が移築保存されています。それら歴史的建造物を活用し、考古、歴史、民俗資料などをテーマ別に常設展示するほか、企画展を開催しています。



山本甚作 ケン玉 1971 80F 油彩・キャンバス

【講演】致道博物館 館長 酒井忠久氏 鶴岡と致道博物館 11月10日(土) PM1:00 より

【同時開催】最上徳内記念館 庄内藩の名品と蘭学者展 11月2日(金) - 12月4日(火)



最上川美術館
真下慶治記念館

〒995-0054 山形県村山市大字大淀1084-1 TEL 0237-52-3195 FAX 0237-55-2152
開館時間／午前9時～午後5時 休館日／水曜日 入館料／大人 300円 小・中学 150円
E-mail mogamigawa@city.murayama.lg.jp HP www.massimo-k.org

平成30年度 特別企画

致道博物館 館蔵品 洋画家三人展

会期 2018年11月2日(金) - 12月4日(火) 常設展示室

鶴岡出身の洋画家3人は、大正・昭和・平成と各方面で活躍された方々です。致道博物館の館蔵品の中から選りすぐって選びました。平成の元号が今年で最後になることを惜しみつつ、平成30年度の特別企画展として「致道博物館 館蔵品 洋画家三人展」を開催いたします。

皆様のご来館を心からお待ち申し上げております。秋の大淀の景色もお楽しみくださいませ。

地主 悌助

大皿	10F	1952	油彩・キャンバス
筵(むしろ)	50F	1955	油彩・キャンバス
自画像	10F	1955	油彩・キャンバス
山村初夏	10F	1958	油彩・キャンバス
ブリキ板	40F	1959	油彩・キャンバス
紙	8F	1959	油彩・キャンバス
石	20F	1966	油彩・キャンバス



自画像

経歴

1889	山形県鶴岡市に生まれる
1905	県立荘内中学校を中途退学、小学校教員
1913	文展で坂本繁二郎を訪問し、師事私淑
1915	秋田県師範学校教諭
1924	山口県女子師範学校教諭
1925	帰郷し、県立鶴岡中学校教諭
	白甕社の委員長をつとめる(1953まで)
1954	神奈川県二宮市に転居し絵画の制作に専念
1956	芸術院会員小林秀雄の認めるところとなり、中央画壇でその名を現すようになる
1966	致道博物館で個展を開催
1971	新潮社の日本芸術大賞を受賞
1975	11月 逝去 享年86才
1977	致道博物館で「地主悌助洋画回顧展」を開催
1990	致道博物館で「異色の洋画家 地主悌助の画業」展を開催

齋藤 求

丘陵	60F	1960	油彩・キャンバス
裸婦	100M	1984	油彩・キャンバス
画架とモデル	100P	1986	油彩・キャンバス
菜の花の咲く頃	30F	1996	油彩・キャンバス



画架とモデル

経歴

1907	山形県鶴岡市に生まれる
1927	東京美術学校(現東京芸大)入学
1929	第16回二科展入選
1931	第1回独立展入選
	東京美術学校油絵科卒業 師:藤島武二、中山巍
1941	独立美術協会賞受賞
1945	東京より郷里鶴岡市に転住
1947	独立美術協会会員
1951	県立鶴岡南高等学校教諭 山形大学講師
1968	鶴岡南高等学校定年退職 東京世田谷区に転住
1991	独立美術協会特別功労賞受賞
1995	鶴岡市特別文化功績賞受賞
	致道博物館主催 米寿記念「斎藤求洋画展」
2003	12月 逝去 享年96才
2005	致道博物館で遺作展を開催 画集『斎藤求の世界』発刊

山本 甚作

ケン玉	80F	1971	油彩・キャンバス
歩行者天国	80F	1973	油彩・キャンバス
老いたる道化	80F	1984	油彩・キャンバス
最後の晩餐	120F	1991	油彩・キャンバス



最後の晩餐

経歴

1915	山形県鶴岡市に生まれる
1928	山形県立鶴岡中学校入学。地主悌助に学ぶ
1934	東京美術学校(現東京芸大)入学
	デッサンを田辺至、塑造を朝倉文夫に学ぶ
1947	鶴岡市立第一中学校教諭(1949年まで)
1953	上京、世田谷区南烏山に居住
1957	日本医科大学名誉教授金子丑之助博士著「日本人体解剖学」の挿絵執筆 以後長年担当する
1959	太平洋美術会会員
1964	樋原健三氏の招きにより示現会に出品 また日展にも出品する
1965	「東京中日新聞」に高木彬光氏の連載小説『都会の狼』の挿絵を執筆
1977	水戸市美松画廊に於いて『フラメンコ素描展』を開催
1978	「サンケイ新聞」に鹿島孝二氏の連載随筆『わが町上野そして浅草』の挿絵を1984年まで執筆
1982	茨城県立県民文化センターに於いて個展
	画道40年記念『山本甚作展』
1992	示現会理事に就任
1996	10月 逝去 享年81才
2000	致道博物館で「山本甚作遺作展」を開催

展示作品は変更をする場合がありますのでご了承下さい



最上川美術館
真下慶治記念館

〒995-0054 山形県村山市大字大淀1084-1 TEL 0237-52-3195 FAX 0237-55-2152
開館時間／午前9時～午後5時 休館日／水曜日 入館料／大人 300円 小・中学 150円
E-mail mogamigawa@city.murayama.lg.jp HP www.massimo-k.org